

まちの話題

プロライダーになりたい

佐藤太亮くん (11歳)



未舗装の周回コースでスピードを争う二輪レース、モトクロス。そのモトクロスの有力選手が東郷町にいるのを皆さんご存じですか。

今回は、中部地区で2位、全国でもトップクラスの実力を持つ佐藤太亮くんに話を聞いてきました。

モトクロス歴7年

太亮くんがモトクロスを始めたのは4歳のとき。元々、両親がモトクロスをやっていたのがきっかけでした。

太亮くんには兄と妹がいますが、兄も今年、中3以下の85ccクラスで中部地区15位の成績を収め、妹も全日本大会出場の経験を持つモトクロス一家です。

家の近くには練習できるコースがないため、毎週末、コースのある三重県いなべ市まで通っています。

ジャンプが得意

モトクロスのコースは、丘陵などの不整地に設けられています。自然の地形を生かした勾配やジャンプ台などの人工的セクションが勝負どころ、そして見どころです。

ジャンプでは一体何mくらい飛ぶのかと尋ねると「20mくらい」と太亮くん。少し想像しづらいですが、バイクに乗った

まま25mプールをほぼ一飛びしてしまうと考えると、ものすごい距離です。

太亮くんは身長136センチと、体は平均より少し小さめですが、速くて正確なジャンプが強みです。コースを読むのが得意で、初めてのコースでも一発で飛べてしまうことも多いといいます。

「ジャンプは楽しい。初めてのところだと怖いときもあるけど、やってみると飛べる」と、さらりと話します。

中部地区で2位

モトクロスでは、3、9月のシーズン中に9つの試合をこなし、各試合の順位によって付されるポイントの合計で、その年のランキングが決まります。太亮くんは小5以下を対象とした65ccクラスで去年より1つ順位を上げ、今年が中部地区で2位となりました。

全国大会は年に一度。今年が11月に宮城県で開催されます。昨年は大会に参加していない太亮くんですが、小3以下を対象の50ccクラスでは2位になったことも。今年が結果に期待がかかります。

日本製のバイクで奮闘

モトクロスには、レース用に軽量化された専用のバイクを使います。バイクには日本製のものと同外国製のものがありま

すが、外国製の方が性能が勝るため、ジュニアでもトップクラスの子どもはほとんどが外国製のバイクです。しかし、外国製のものが高価な上に維持が難しいなどの問題があるため、太亮くんは日本製のバイクに乗っています。

外国製のバイクに囲まれながら日本製のバイクでこの結果を出しているのかと思うと、その「すごさ」がより際立ちます。

プロライダーになりたい

太亮くんは、将来の夢を「プロのライダーになること」と話します。

モトクロス一本で生計を立てられる職業ライダーはほんの一握り。日本にはまだ10人もいません。

それでも「まず、全日本大会で1位になってアメリカの大会に出て、それから外国で練習して…」と夢の話が止まらない太亮くんの姿を見ていると、そんな困難さえもモトクロスのジャンプのように軽々と飛び越えてくれるのでは、と思わずにはいられません。東郷町「期待の星」の将来が今から楽しみみです。